

令和5年度 厚生労働省科学研究費補助金
職場における女性の健康保持増進のための効果的な産業保健活動の確立に向けた研究
(23JA0501)

分担研究報告書

産婦人科受診のためのセルフチェックツールの開発

研究分担者

金城 泰幸
産業医科大学 医学部 産科婦人科学

令和5年度 厚生労働省科学研究費補助金

職場における女性の健康保持増進のための効果的な産業保健活動の確立に向けた研究

産婦人科受診のためのセルフチェックツールの開発①

研究分担者 金城 泰幸(産業医科大学医学部産科婦人科学 助教)

研究要旨:

月経随伴症状や更年期障害を有する場合でも産婦人科への受診につながらないことが指摘されている。このような健康問題を抱えた女性労働者が職域でセルフチェックができ、受診のきっかけとなるような質問項目を作成することを目的とした。はじめに臨床現場で従事する産婦人科医 9 名を対象に、疾患の選択と当該疾患の患者から得られる主訴を抽出した。**対象とする産婦人科疾患は、悪性腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜症、月経前症候群・月経前不快気分障害、更年期障害とした。**症状分類は、痛み、月経血量・不正出血、気分障害、体重や体の変化、家庭生活（食事、睡眠、性交渉）、職業生活（アブセンティーズム）とし、就労世代の**女性がセルフチェックできる質問項目の原案を症状分類別に作成した。**

A. 目的

月経随伴症状や更年期障害は症状があっても受診につながらないことが指摘されている。そのため女性自身がセルフチェックやセルフケアを行えるための環境整備が課題とされている。将来的には、産婦人科に関連する健康問題を抱えた女性労働者が職域で質問項目に対し回答することでセルフチェックができ、産婦人科受診のきっかけとなるセルフチェックツールの作成を目指したい。今回の分担研究では、その原案作成を目的とした。

B. 方法

就労女性がセルフチェックする際に対象となる産婦人科疾患を設定した。次に臨床業務に従事する産婦人科医 9 名に対

してインタビューを実施し、対象となる産婦人科疾患ごとに患者から得られる主訴や症状を抽出した。症状分類に分けて質問項目の原案を作成した。

C. 結果

就労世代の有病率や家庭・社会生活への影響を参考に、質問票の対象とする疾患を悪性腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜症、月経前症候群・月経前不快気分障害、更年期障害に設定した。症状分類は、痛み、月経異常や不正出血、排泄の障害、気分の障害、体重や体の変化、家庭生活（食事、睡眠、性交渉）、職業生活（アブセンティーズム）の 6 項目に分類し、計 18 の質問を作成した（表 1）。特定の質問項目は対象年齢（45 歳以上）を設けて回答を促すよう設定を

設けた。

D. 考察

就労世代の女性がセルフチェックツールを使用することで自身の症状を自己評価し、受診が必要な場合に受診を促すことができるツール作りを目指した。

はじめに受診が必要と考えられる疾患を設定した。続いて疾患別の主訴や症状をあげ、非医療職が用いると想定される平易な言葉で作成した。今後は症状のレベル分類と受診の推奨度の関係性の評価、またセルフチェックを行うことで受診に繋がるかを患者層や一般集団を用いて検証する。

E. 結論

就労世代の女性がセルフチェックできる質問項目の原案を症状分類別に作成した。

F. 引用・参考文献

なし

G. 学会発表

なし

H. 論文業績

なし

I. 知的財産権の出願・登録状況:(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表 1

- 痛み

- ① 毎回の月経時に痛み止めが必要である。
- ② 月経以外に痛み止めを必要とする痛みが毎月出現する。

- 月経異常や性器出血

- ③ 夜用の生理用品を使用しても 1-2 時間の交換が必要である。
- ④ 月経量が多い日が 2 日以上続くことがある。
- ⑤ 月経以外の出血が毎月ある。
- ⑥ 生理用品を交換する短い時間でも月経血が流れ出る。

- 排泄の障害

- ⑦ 2-3 時間おきに尿意を感じ排尿する。
- ⑧ 便秘になったり、便が細くなったと感じる。
- ⑨ 排便時に痛みを伴うようになった。

- 気分の障害

- ⑩ 月経前から月経中にかけていらいらや不安、気分の落ち込みがあり、仕事や家庭生活を充分に取り組めないことがある。

- 体重や体の変化

- ⑪ 急にお腹だけが出てきて太ってきたと感じることがある。
- ⑫ 姿勢を変えることでお腹に動きを感じる。
- ⑬ お腹がすかず、腹満感を感じる。
- ⑭ (45 歳以上は回答) 突然の体熱感や発汗、動悸を感じ、仕事や家庭生活を充分に取り組めないことがある。
- ⑮ (45 歳以上は回答) 寝つきが悪いこと、眠りが浅いことがあり、仕事や家庭生活に影響を及ぼすことがある。

- 生活機能の障害

- ⑯ 性交渉時に必ず出血を伴うようになった。
- ⑰ 性交渉時に以前は感じなかった痛みを感じるが増えた。

- 職業生活の生涯

- ⑱ 月経に伴う症状のため月経のたびに一日以上の仕事を休みことがある。